

知っておきたい！骨粗しょう症

山陰中央新報 連載コラム バックナンバー ⑪

2021年4月25日掲載：「骨卒中（こつそっちゅう）」を予防！

皆さん、脳卒中（のうそっちゅう）という言葉は聞いたことがあると思いますが、骨卒中（こつそっちゅう）はいかがでしょうか？

脳卒中は、あたまの血管障害により発生し手足が動かない、言葉が出ないなどの症状が生じる状態です。脳卒中の場合、再発しないように抗凝固薬（血をサラサラにする薬）などの予防薬が処方されます。

それでは、骨折後の場合はどうでしょうか？「もう骨はなおったけん、大丈夫だわね。」と思う方いませんか？高齢者の骨折は繰り返すことにより、要支援、要介護、しいては寝たきりになるリスクが生じます。近年この状態を『骨卒中』といい、高齢者の骨折では、更なる骨折を予防することが非常に重要となります。再骨折を予防するために薬物治療が必要となることがほとんどで、逆に、骨折したのに薬の処方がない場合は気をつけないといけません。

ただ、骨粗しょう症薬の処方が開始されたとしても「痛くないけん、薬飲んでもいいがあ。」と自己判断でやめてしまう方も実際多く、薬の継続率は処方開始1年で50%を切るとのデータもあります。普段の外来診療における医師の処方、指導のみで解決できる問題ではないことがわかっています。

それを解決する取り組みが日本骨粗鬆症学会が提唱している『骨粗しょう症リエゾンサービスOLS』であり、骨折予防のため、骨粗しょう症の治療率と治療継続率の向上を主な目標としています。

リエゾンとはフランス語の“lier（リエール）”という動詞が語源であり『連絡係』と、診療におけるコーディネーターの役割を意味します。その担い手に骨粗しょう症に関する知識を持つ専門スタッフ『骨粗しょう症マネージャー』という制度があり、現在全国に約3600人います。その骨粗しょう症マネージャーが治療継続できるよう、臨床の場で手助けするわけです。海外では数十年前よりすでに開始されており、再骨折リスクの低減、生命予後の改善などの大きな成果をあげています。

例えば、当院JCHO玉造病院での取り組みは、骨折の為に入院したすべての患者さんをリスト管理し、毎週骨粗しょう症チームカンファレンスで診断、治療の必要性について検討します。退院後、かかりつけ医への紹介や骨粗しょう症専門外来にて定期検査含め治療継続ができる体制を整えており、その役割を担うのが骨粗しょう症マネージャーとなります。

高齢者の骨折は若い頃のそれと全く別物です。骨折を繰り返し寝たきりに、命にかかわる骨折にならないよう、骨卒中が生じないように、骨粗しょう症治療を継続することはとても重要なことであり、その一助となるのがリエゾンサービスとなります。

さて、この一年間骨粗しょう症について、月1回連載してきましたが、今回は最終回となります。この連載は骨粗しょう症マネージャーが中心となり役割分担し、多職種からの専門性を生かしたコラムを目指してきました。人生100年時代、このコラムが皆さんにとって骨の健康を維持し健康寿命を延ばす一助となれば幸いです。



歯科口腔外科医
歯科助手



医師

多職種の医療スタッフが あなたの骨の健康をサポートします



管理栄養士



看護師



理学療法士
作業療法士



診断放射線技師



臨床検査技師



薬剤師